

第1章 本市を取り巻く現状と将来の見通し

1. 市域・地勢・都市構造

(1) 市域・地勢

弘前市は、青森県の南西部、広大な津軽平野の南部に位置し、総面積 52,420ha と青森県全体の 5.43% を占めます。

平成 18 年（2006 年）2 月 27 日に、弘前市、岩木町、相馬村の 3 市町村が合併し、現在の「弘前市」が誕生しました。

(2) 都市構造

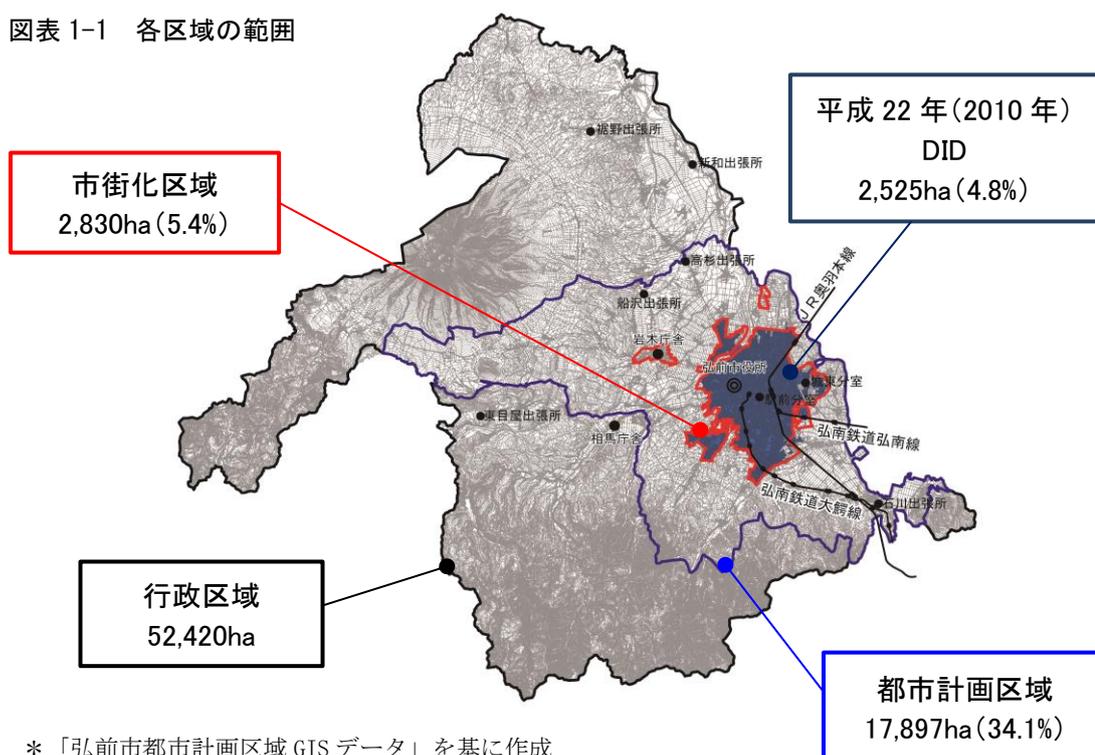
市域の 34% にあたる 17,897ha が都市計画区域、うち 2,830ha が市街化区域で市域の 5.4% となっており、市街化区域には、弘前市の人口の 69.4% が居住しています。

市街化区域は、無秩序な開発が進まないよう都市形成をしてきたことで、当初決定した昭和 46 年（1971 年）時点で 2,087ha であったのに対し、平成 24 年（2012 年）は 2,830ha となっており、40 年間で約 1.35 倍までしか広がっていません。

平成 22 年（2010 年）の市域全体に対する人口集中地区（以下、D I D という。）が占める人口割合は 66.0%、面積割合は 4.8% となっています。また、市街化区域（2,830ha）の 89.4% が D I D（2,530ha）で、市街化区域の大部分が人口密度の比較的高い地域となっています。

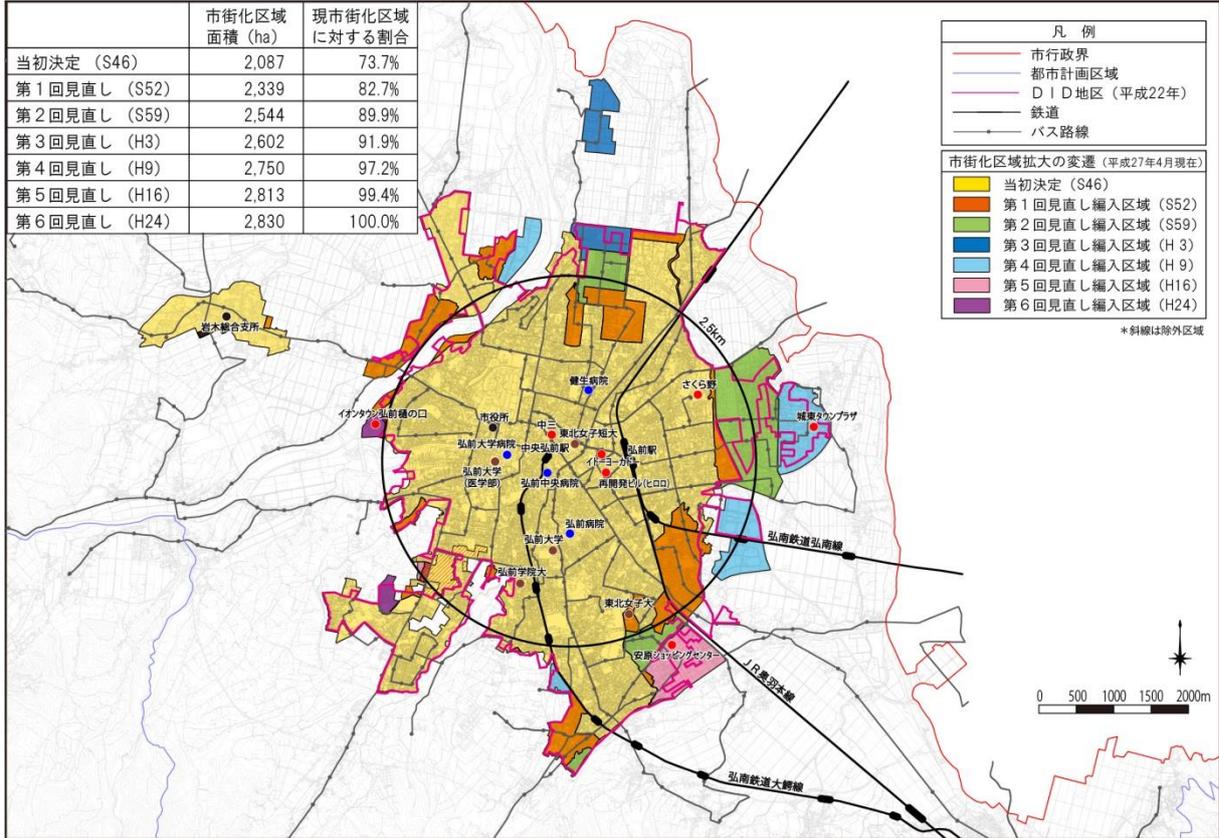
この 50 年間（昭和 35 年（1960 年）から平成 22 年（2010 年））で D I D は、人口が 175% 伸び、面積が 3.4 倍に拡大しましたが、これは、計画的な市街地整備により、良好な住宅市街地が広がってきたものです。

図表 1-1 各区域の範囲



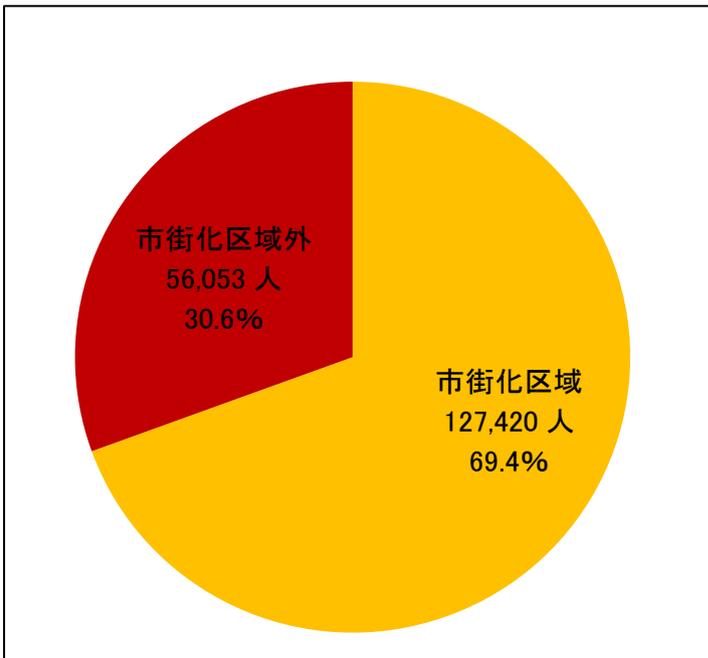
* 「弘前市都市計画区域 GIS データ」を基に作成

図表 1-2 市街化区域の変遷



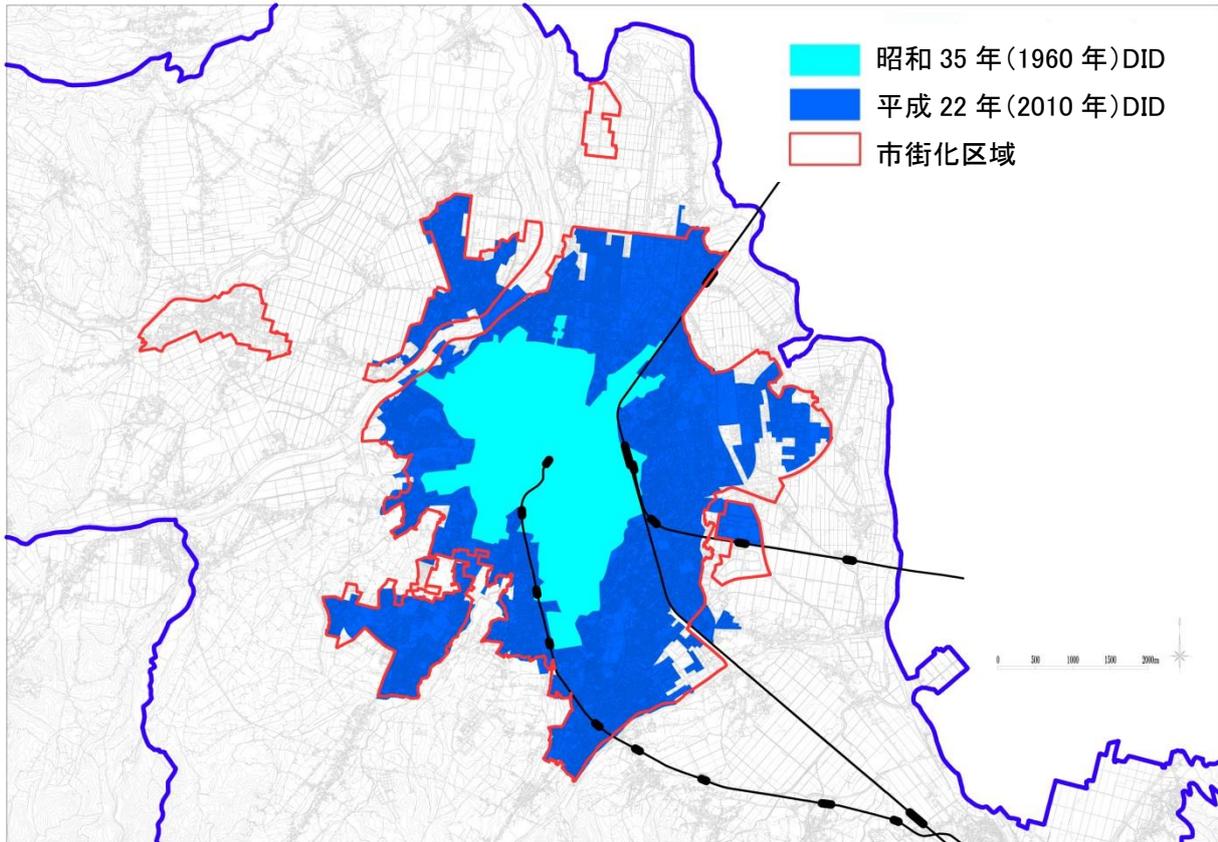
* 「弘前市都市計画区域 GIS データ」、「青森県の都市計画 <資料編>/青森県 (平成 26 年 3 月)」を基に作成

図表 1-3 市街化区域と市街化区域外の人口の割合



資料：「平成 22 年国勢調査」

図表 1-4 平成 22 年 (2010 年) D I D (昭和 35 年 (1960 年) 重ね)



* 「弘前市都市計画区域 GIS データ」を基に作成

(3) 都市構造の分析・特徴

弘前市は、無秩序な開発を抑えて、市街化区域が広がらないよう市街地の形成をしてきた結果、市域面積の約 5%にあたる市街化区域に人口の約 7割が居住し、旧城下町の町割りを残しつつ、周辺に住宅地が形成されたコンパクトな市街地を形成しています。

弘前市と同等の人口規模を有する地方都市と比較しても、弘前市は、全人口に占める D I D 人口の割合が高いことから市街地へ人口が集中しており、また、市域面積に占める市街化区域面積の割合が低く、かつ市街化区域面積に占める D I D 面積の割合が高いことから市街地がまとまっている、比較的コンパクトな都市構造にあると言えます。

2. 人口

(1) 人口と世帯数

平成20年(2008年)から平成28年(2016年)にかけての弘前市の人口は、やや減少傾向にあり、世帯数は増加していますが、1世帯当たりの人員は減少しています。

高齢化率(65歳以上)は、平成20年(2008年)時点の24.1%から、平成28年(2016年)時点では29.8%と高齢化が進展しています。

資料編2.(2)1参照

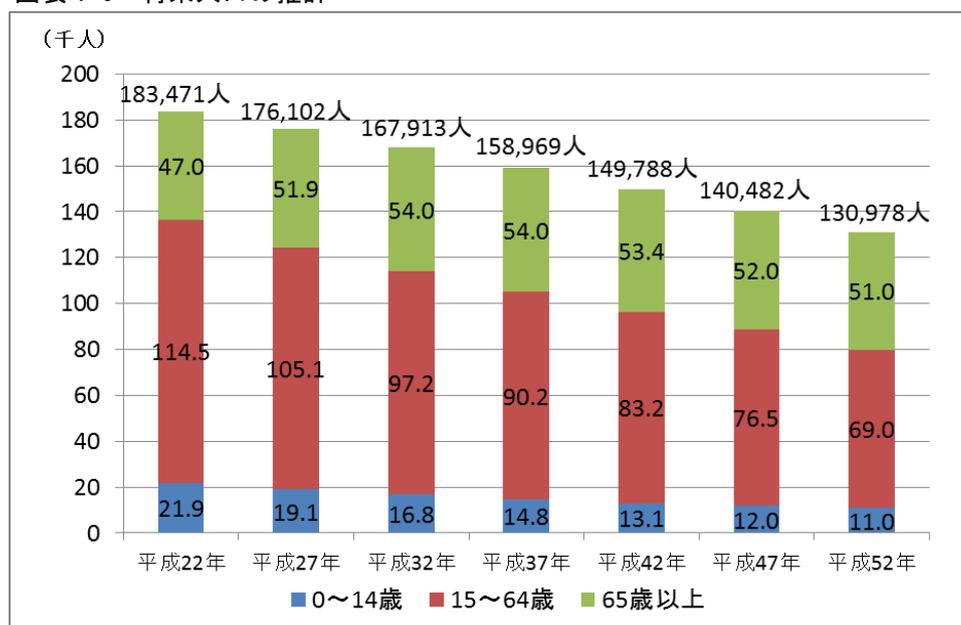
(2) 将来人口推計

平成22年(2010年)の人口は183,471人ですが、25年後の平成47年(2035年)には、140,482人と実に23%の人口減少が推測されています。

高齢化率(65歳以上)は、平成22年(2010年)の25.6%から平成47年(2035年)には37.0%に達するものと推測されています。

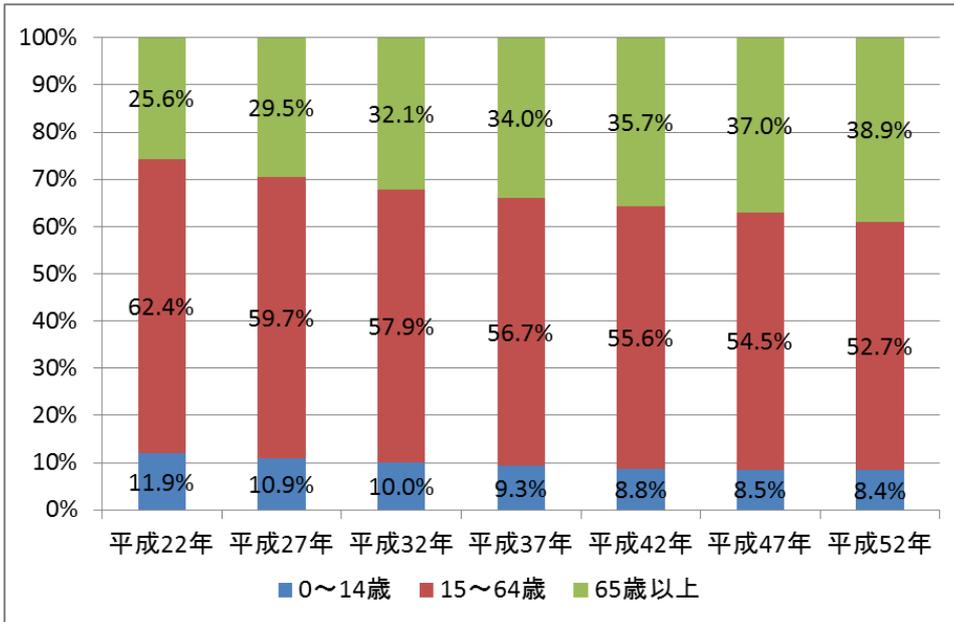
市域全体の人口に対する市街化区域の人口の割合は増加傾向にあり、今後も増加が見込まれます。

図表 1-5 将来人口の推計



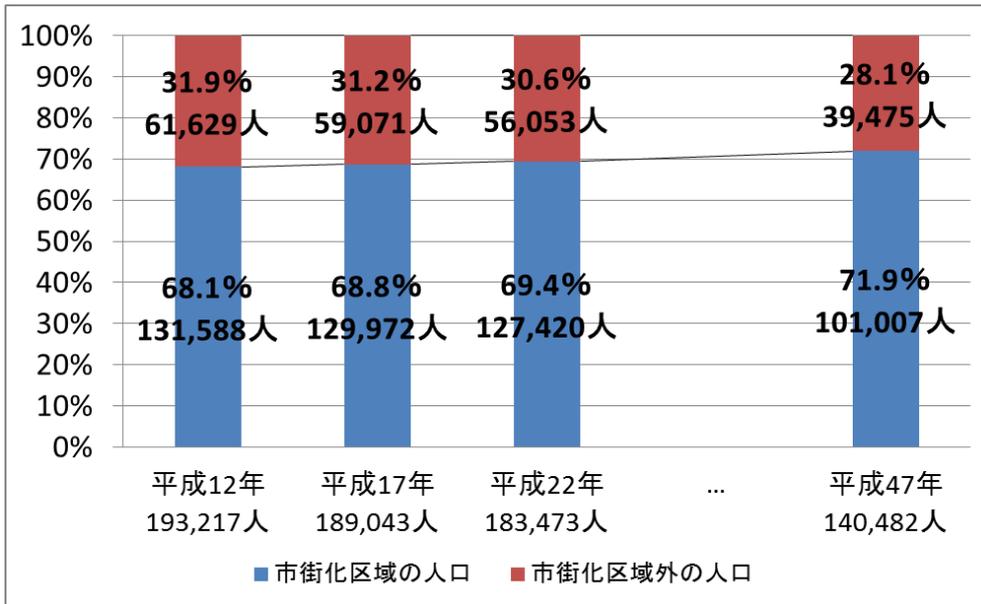
資料：「弘前市人口ビジョン（平成27年9月）（国立社会保障・人口問題研究所平成25年3月推計）」

図表 1-6 年齢別人口割合の推計



資料：「弘前市人口ビジョン（平成 27 年 9 月）（国立社会保障・人口問題研究所平成 25 年 3 月推計）」

図表 1-7 市街化区域内外の人口の割合の推移・推計



資料：「平成 12 年～平成 22 年は国勢調査、平成 47 年は弘前市人口ビジョン（平成 27 年 9 月）（国立社会保障・人口問題研究所平成 25 年 3 月推計）」

※平成 17 年までは旧弘前市、旧岩木町、旧相馬村の合計、平成 47 年の市街化区域内外の人口の割合は人口メッシュ推計による拾い出しにより算出。

(3) 人口分布

住区区分別可住地人口密度をみると、岩木地区以外では平成 22 年（2010 年）は 80 人/ha 以上の住区が多く、その後、人口減少が進みますが、平成 47 年（2035 年）になっても 60 人/ha 以上を保ちます。

平成 22 年（2010 年）の国勢調査を基にした人口分布と平成 47 年（2035 年）で推計した人口分布を比較すると、全体的に人口が減少しており、中心市街地の空洞化は著しく、特に中央弘前駅と弘前駅付近の 1 住区、2 住区、3 住区、7 住区の人人口減少が著しい傾向にあります。また、郊外部である 5 住区、6 住区、12 住区、20 住区、22 住区、24 住区も人口減少が著しい傾向にあります。

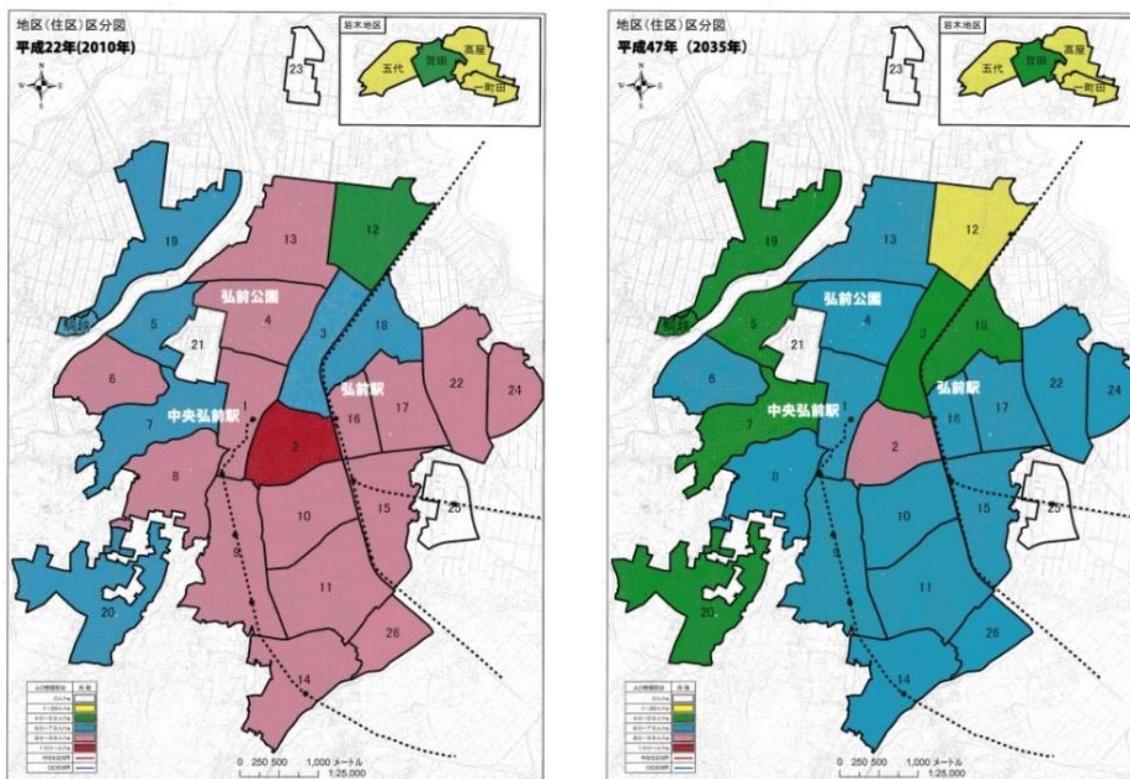
鉄道駅の周辺に一定の人口規模を維持してきましたが、平成 47 年（2035 年）になると、鉄道駅周辺の人口が減少しています。

平成 22 年と平成 47 年の人口密度を比較すると、市街化区域全域では 45.0 人/ha から 35.7 人/ha、市街化区域の可住地人口密度は 81.9 人/ha から 65.0 人/ha と人口は減少しますが、一定の人口密度を保ちます。

工業系の用途がある 3 住区、10 住区、12 住区、18 住区、19 住区、20 住区は住工混在の地域となっています。

平成 22 年（2010 年）と平成 47 年（2035 年）の高齢化率分布を比較すると、市域全体で高齢化が進み、中心市街地とその周辺の 1 住区、2 住区、3 住区、4 住区、そして郊外の北側、西側、南側の 5 住区、6 住区、9 住区、11 住区、13 住区、14 住区、18 住区、20 住区、賀田住区、五代住区で 40%以上となるエリアが増えてきます。

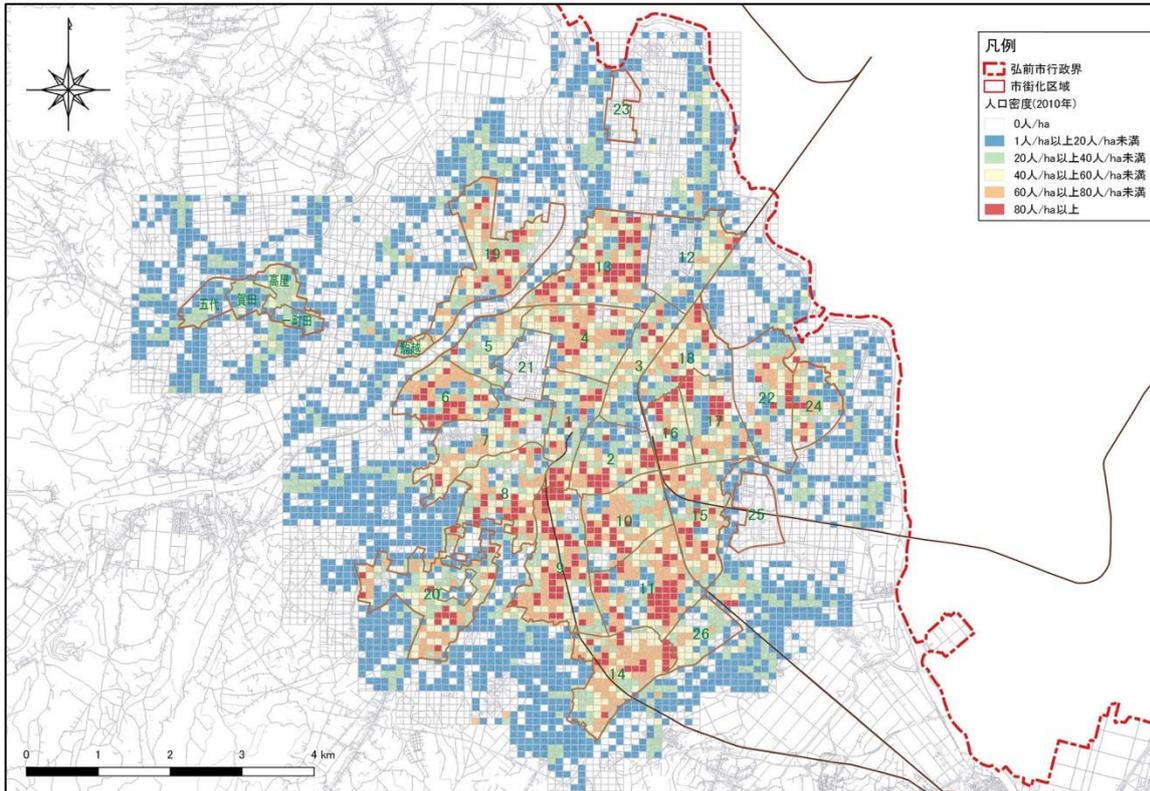
図表 1-8 住区区分別可住地人口密度（現在・将来予測）



* 「平成 24 年度弘前市都市計画基礎調査」を基に作成
 ※住区…都市計画で用いる、住居地域の構成単位としての区域

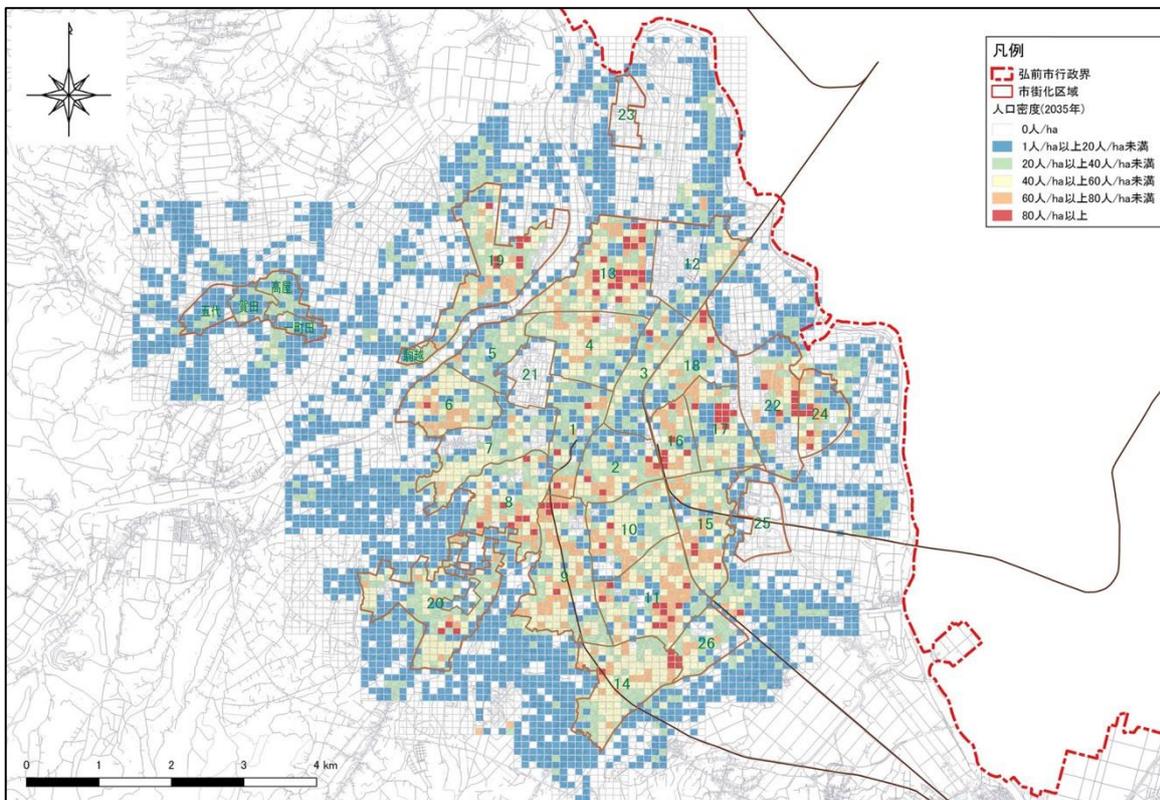
人口密度区分	凡例
0 人/ha	
1~39 人/ha	
40~59 人/ha	
60~79 人/ha	
80~99 人/ha	
100~人/ha	

図表 1-9 人口分布(100mメッシュ) 平成 22 年 (2010 年)



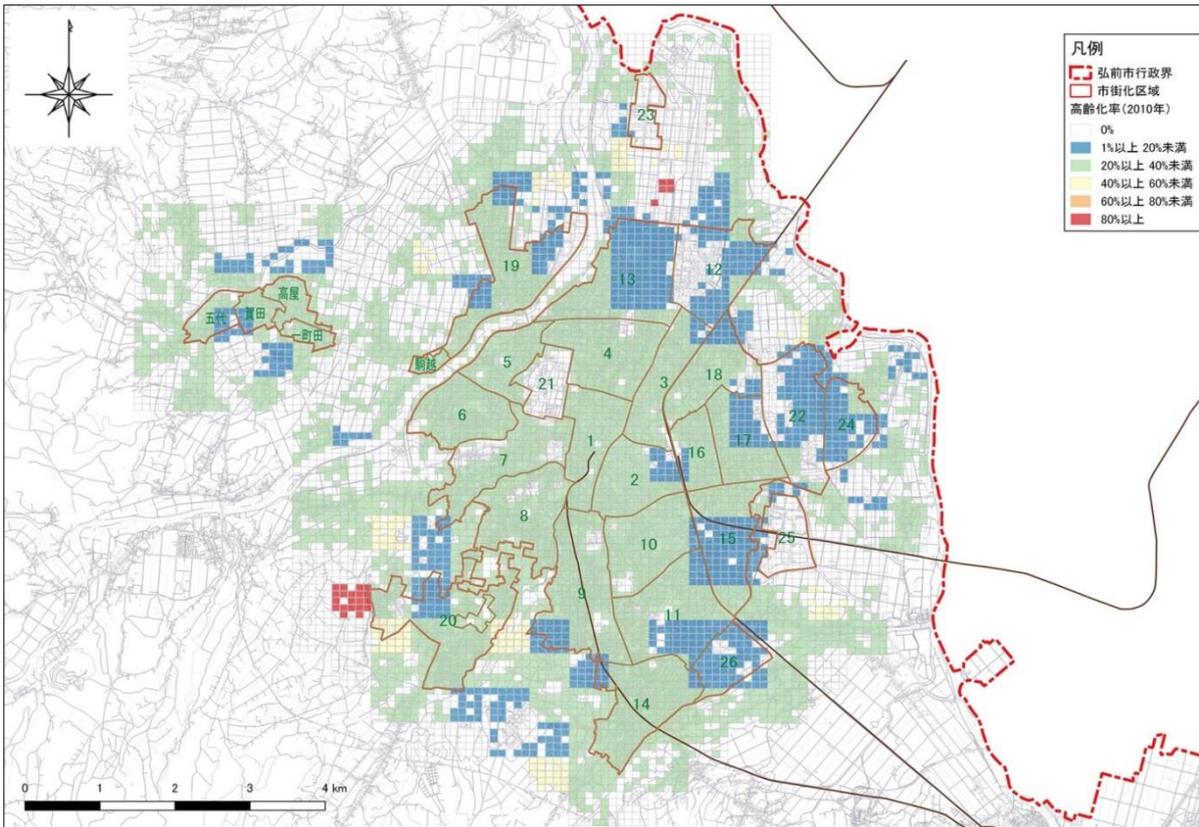
*「平成 22 年国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数/総務省統計局」を基に作成

図表 1-10 人口分布(100mメッシュ) 平成 47 年 (2035 年)



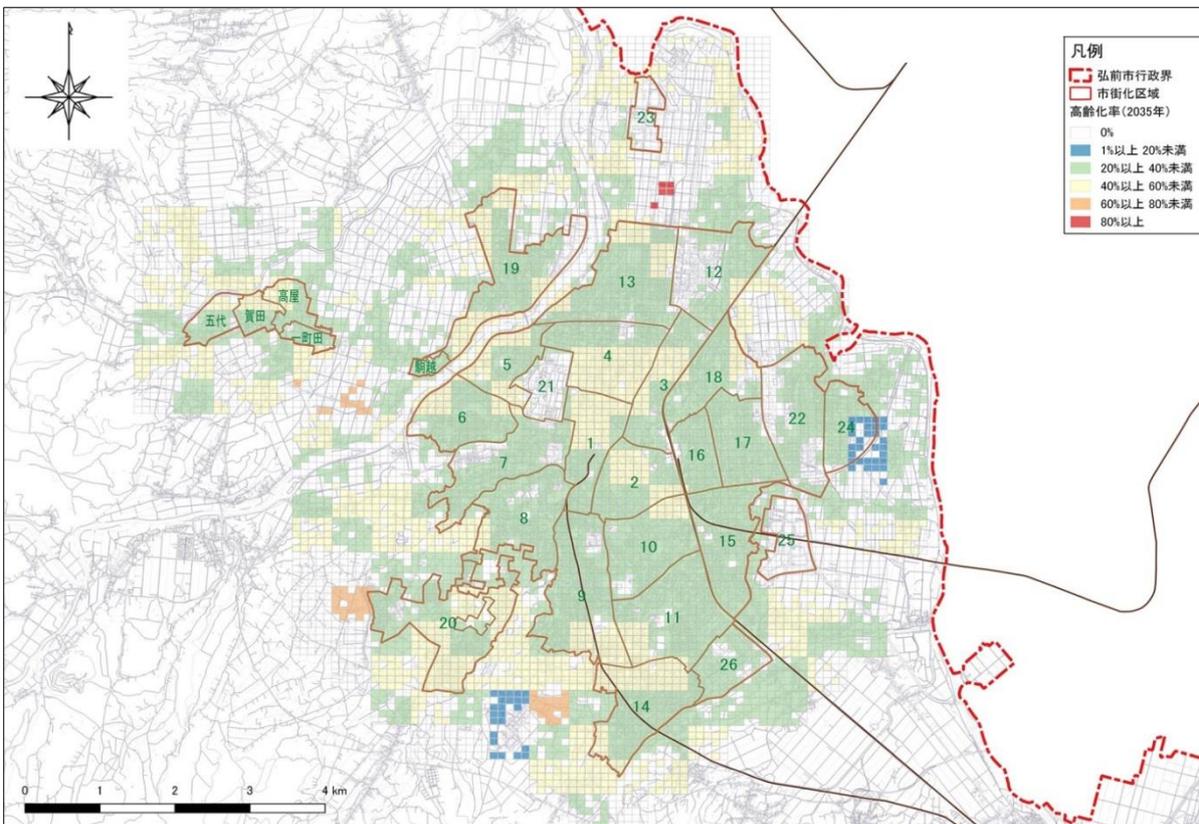
*「平成 22 年国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数/総務省統計局」を基に作成

図表 1-11 高齢化率分布(100mメッシュ) 平成 22 年 (2010 年)



* 「平成 22 年国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数/総務省統計局」を基に作成

図表 1-12 高齢化率分布(100mメッシュ) 平成 47 年 (2035 年)



* 「平成 22 年国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数/総務省統計局」を基に作成

